

3つの身体・5つの鞅・3つの状態とは？

ニルリプタナンダジ講話1 (2019/3/20)

記 丸岡汪行

◎3つの身体

ヴェーダ哲学によると、私たちには3つの身体があります。

- 1つめは粗雑な目に見える物理的な身体です。
- 2つめは繊細な身体でアストラル体とも言い、物理的な身体の内側にあります。
- 3つめは原因体と言い、アストラル体の内側にあります。

1. **粗雑な身体** には内臓や手足や頭やいろいろな器官があつて、私たちはこれを通して世界を見ます。またこの物理的な身体に命があります。命とは生命エネルギー、即ちプラーナです。プラーナがあるからこの身体は動くのです。このプラーナが身体から出てゆくと、“身体の死”となります
2. **繊細な身体(アストラル体)** の中に、5つのプラーナ(プラーナ、アパーナ、ヴィヤーナ、ウダーナ、サマーナ)、4つの機能:心(マナス:考えることができる、チッタ:記憶する、ブッディ:知性:物事を分析し決意する。アハンカーラ:エゴ)がある、さらに、カルマインドリアと呼ばれる5つの行動器官(手、足、口、生殖器、排泄器官)、ギャーナインドリアと呼ばれる知識の5感覚器官(目、鼻、舌、耳、皮膚)があります。
つまり、繊細な身体(アストラル体)の中に19の機能 functions(原理 principles・要素 elements)があります。
3. **原因体** 繊細な身体の内側に、原因体と呼ばれるさらに繊細な身体があり、至福からできています。私たちは毎晩深い眠りの時に、ここで休み、至福感を味わいます。この原因体は、他の2つの身体(物理的な身体とアストラル体)の原因となっています。深い眠りから他の2つの状態(夢を見ている状態と目覚めた状態)へ戻りますので、2つの状態の原因にもなっています。この原因体の性質は、アヴィッデアと呼ばれる無知です。そのために私たちはここで休んでも全くそのことを覚えていません。

また原因体の中には、すべての欲望の種(カルマ)があつて、欲望の種は心に入って、目覚めてきて、行動を起こします。つまり欲望や行動の原因にもなっています。

さらに、私たちの印象(サムスカーラ)も原因体の中にあり、これが輪廻転生の原因になっています。つまり満たされない欲望がここにあつて、それを満たすためにまた生まれ変わるのです。

◎5つの鞅とは

①アンナマヤ・コーシャ(食物の鞅)、②プラーナマヤ・コーシャ(命の鞅)、③マノーマヤ・コーシャ(心理的な鞅)、④ヴィニャーナマヤ・コーシャ(知的鞅)、⑤アーナンダマヤ・コーシャ(至福の鞅)の5つです。

私たちアートマン(魂・真我)はこの5つの鞅で覆われています。

物理的肉体がアンナマヤ・コーシャです。私達が食べる食物からできています。同時に、粗雑な5元素(空間、空気、火、水、土)からできています。

サンスクリット語でスークシュマ・シャリーラ(Sukhma Sarira)というのは繊細な身体という意味です。肉体はストウーラ・シャリーラ(Sthula Sarira:粗雑な身体・物理的身体)と言います。

繊細な身体(アストラル体)は、プラーナマヤ・コーシャ(プラーナ&カルマインドリア)、マノーマヤ・コーシャ(マナス&チッタ&ギャーナインドリア)、ヴィニャーナマヤ・コーシャ(アハンカーラ&ブッディ)の3つからできています。

原因体は、アーナンダマヤ・コーシャと同じものです。

3つの身体と5つの鞅は同じものですが分類の仕方が違うだけです。

◎3つの状態(Avastha アヴァスタ:状態)

私たち意識には①起きている状態(Jagrata ジャグラッタ Avastha)、②夢を見ている状態(Svapna スヴァプナ Avastha)、③深い眠りの状態(Sushupti スーシュプティ Avastha=Sushu:深い、Shupti:眠り)の3つの状態があります。

この3つの状態は3つの身体との関係があります。

①**起きている状態**の時は、私たちは3つの身体を認識して、意識は身体の中にあります。
3つの身体はすべて働きます。

②**夢を見ている状態**の時と**深い眠りの状態**では、物理的な身体の意識はなく、物理的身体は機能していません。
ですからこの状態では物理的身体を動かすことはできません。外に向かった感覚器官も同じく働きません。

しかし、夢を見ている状態の時は、繊細な体だけが機能し、繊細なレベルの感覚器官が働きます。この状態では心だけが働きます(心以外のものは何もありません)。

この時、心は主体と客体(対象物)の2つになります。(心が夢を作り、その夢を心が見ます。)

エゴも知性も動きません。(夢の中でドラマを見るときは、繊細なレベルのエゴや知性は働きますが、自分の意志で、ドラマは作れません。)

③**深い眠りの状態**では原因体だけが働きます。(心も知性もエゴも繊細な身体や物理的な身体は働きません)。
「自分は存在している」という意識だけが存在します。ですから、この存在が至福を体験します。

魂のことをジヴァ・アートマンと呼び、それは3つの身体、5つの鞅に覆われていて、3つの状態を体験します。

3つの身体と、5つの鞅、3つの状態は同じものを別の見方で説明しています。

それは、1つの魂が体験することを、違った側面から語っているにすぎません。

Q&A

深い眠りの状態の時、深い眠りには至福ですが、そこには眠っている魂、即ちジヴァ・アートマンが存在し、この魂の中に欲望が、印象はサムスカーラと心(チッタ)に、カルマは原因体に記録されています(これが次の生の原因になります)。この時の欲望はただそこに存在するだけで、体験されるのは至福です。欲望は種のように眠っています。

】死の時は深い眠りに似ていますが、一時的なもので、次の生では魂と共に心も引き継がれるので、印象やカルマが次の生を支配します。

3つの身体・5つの鞅 : 魂は5つの鞅に覆われている

: 内に行くほど繊細になって遍在する

ストウーラ シャリーラ
1. 粗雑な身体: ①アンナマヤ・コーシャ(食物の鞅)
・5元素(空、風、火、水、土)食物できている
【存在-誕生-成長-変化-衰退-死の段階を踏む】

スークシュマ シャリーラ
2 繊細な身体・アストラル体: (19機能): ②プラーナマヤ・コーシャ(命の鞅)=10機能
・5つのプラーナ・5つの行動機能(カルマインドリア;手、足、口、生殖器、排泄器官)
【飢え、渇き、暑さ、寒さを司る】

2. 繊細な身体: ③マノーマヤ・コーシャ(心理的な鞅)=7機能 ・マナス ・チッタ
・5つの感覚器官(ギャーナインドリア;眼、口、鼻、耳、皮膚)【思考、疑念、怒り、欲望、鬱、惑い】

2. 繊細な身体: ④ヴィニヤーナマヤ・コーシャ(知的な鞅)=2機能 ・エゴ、知性
【識別、決断】

カーラナシャリーラ
3. 原因体: ⑤アーナンダマヤ・コーシャ(至福の鞅)・至高の幸せを経験する
・サムスカーラ、カルマから成る ・無知

魂・アートマン

カルマについての質疑応答

ニルリプタナンダジ講話2(2019-3-22)

- ◇ 魂には3つの身体があり、魂が学習したり、経験したりできるのは、この肉体の身体のおかげです。
- ◇ 夢の中の行動は、自分でコントロールできませんので、体験はしますが、アーガミ・カルマを作りません。原則として、アーガミ・カルマは、3つの身体すべてを使った行いで作られます。目覚めている状態ではエゴが働くので新しいカルマが作られます。
- ◇ 夢では体験ができるので、夢の中でプラーラプタ・カルマの消化ができます。(稀有な例ですが、グルが骨折した夢を弟子に見させることで、カルマを消化させることもあり得ます)
- ◇ 夢は自分でコントロールができないので、アーガミ・カルマは作られませんが、心を使えば(アーガミ)カルマは作られます。怒りや悲しみなどの強い思いや想像で、メンタルなカルマが作られます。
- ◇ カルマの法則、そのものではありませんが、深い(悲しみ等の)感情や、死ぬ時の感情は、それが自分の意図ではなくても魂がそれを印象としてサンチタ・カルマとして蓄えられ、次の生に持ち越します。
- ◇ サンチタ・カルマの中からどれをプラーラプタ・カルマとするか(次の生で体験するか)は100%神が決めます。(個々の魂とは全く相談なく、行った結果として神が Super computer で決めます)
- ◇ 生まれる前に、カルマの結果で人生のすべての青写真ができていますが、今生での行いの都度、アップデート修正されます。
- ◇ 今生で誰と会うかは神の計画ですが、個人が選択する余地もあります。皆さんが今こりシケシに居るのもカルマの結果なので神の計画ですが、同時に自分でも決めていきます。
- ◇ 今生の行為がアーガミ・カルマを作るので、利己的でなかったり、ただ目撃者としてだけ関わったりしていれば、行為があってもアーガミ・カルマにはなりません。ギターにその原則があります。
- ◇ 世の中が不公平だと嘆く人にはヨガの教え、カルマの法則を伝えなさい。伝えることは良い行いです。その人に聞く耳がなかったらそのことを忘れなさい。それも、その人のカルマなのです。
- ◇ 過去のことに捕らわれず、今この瞬間から善いことを始めなさい。ヨガをしなさい。そうすることで、確実に解放へ導かれます。
- ◇ 人生での選択の判断基準は、識別力を養い、善い/悪いで決めなさい。感覚器官の喜びを選択するのは良くありません。聖典を読めば基準が分かり、神に近付きます。自分の義務を果たしなさい。インスピレーションに頼らず聖典・聖者に学びなさい。

3つのカルマ

サンチタ・カルマ・・・人間としての過去生全ての行いの結果が種の形で蓄積保存され、将来の消化の対象となる

プラーラプタ・カルマ・・・ 今生の原因となっているカルマで、この生で体験することによってだけ消化できる

アーガミ・カルマ・・・ 今生で行っている行いの結果が将来体験すべきカルマとして蓄えられる